

<プログラムの展開例>

1. 単元名（活動名） 八王子の食卓から世界を知ろう					
2. 対象 小学校5・6年生	カリキュラム開発の視点				
		1	2	3	4
3. 教科領域との関連性 総合的な学習の時間と 社会科を関連させる。	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	参加・協力	
4. 実施時期： ※ 実施時期は学校により異なる。			5. 総時数：7時間		
6. 単元（活動）目標 <ul style="list-style-type: none"> ・家での食卓の様子を絵に描き、普段食べている食材の産地に興味を持つ。 ・近くの店や「道の駅八王子滝山」で売られている食材を、国産、外国産、八王子産に分けながら調べる。 ・外国産の食材を世界地図に書きこむ活動や、輸入に関する資料を読み取る活動を通して、日本の食料自給率の低さや地産地消の大切さを知る。 ・外国人留学生から母国の食卓の様子について話を聞き、自分たちとの共通点や相違点を考える。 ・食を大切にするために自分にできることを文章にまとめ、話し合う。 			7. キーワード 〈内容〉 国産、外国産、八王子産、道の駅八王子滝山、地産地消、食料自給率 〈方法〉 食卓の様子を絵に描く 食材について調べる 外国人留学生に話を聞く		
8. 単元について（教材観・単元設定の理由・国際理解教育の視点など） <p>私たちの食卓に並ぶ食材は外国から輸入されているものが多く、普段よく口にする肉、魚介類、果物だけでなく、さまざまな食品に加工されている小麦粉（パン、うどん、スパゲッティなどの原料）、大豆（納豆、みそ、とうふなどの原料）など、日本の輸入依存率は大変高い。</p> <p>本プログラムでは、まず、自分たちの毎日の食卓に目を向け、食材がどの国や地域から来ているのか近くの店やスーパーで調べる。八王子市には、東京都内唯一の道の駅があり、八王子産の食材が多く売られているので、地産地消の大切さに触れながら「道の駅八王子滝山」を活用した学習にも取り組む。</p> <p>一方、地球上には、多くの子どもたちが栄養失調や飢餓で病気にかかったり死亡したりしている開発途上国がある現状を知り、食事を残さずに食べることの大切さや、食料自給率を上げることにつながる地元産や旬の食材を選ぶことの重要性を理解する。</p> <p>また、八王子市が地域23大学等に約3,000人の外国人留学生が通う学園都市であることを生かして、外国人留学生から母国の食卓について話を聞き、自分たちとの共通点や相違点について話し合う。</p> <p>以上の学習を通して、自分たちの毎日の食卓が世界につながっていることや地球的課題について考え身近なところからできることに取り組もうとする態度を身につけること、外国人留学生との交流を通してコミュニケーション力を高め視野を広げることが、本プログラムのねらいである。</p>					
9. 授業作りのための参考資料・連携（関係性）について <ul style="list-style-type: none"> ・帝国書院 統計資料・統計地図 ・東京書籍 5年上 社会科 ・JICA 小冊子「世界の食料」 ・JICA HPより「どうなっているの？世界と日本」http://www.jica.go.jp/world/interdependence/ ・八王子市内在住の外国人留学生（八王子国際協会に講師派遣依頼） 					

10. 展開計画		
次/時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点など
1次	家で食べているものを考えよう。	
(1時)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の家での食卓の風景や好きな食事を絵に描く。 描いた絵をもとに、食事に使われている食材がどこで作られているか考える。 外国産の食材で知っているものをあげる。 (例) バナナ、牛肉など 	<ul style="list-style-type: none"> 絵だけでなく写真や献立を書くことでも良い。
2次	店で売られている食材を調べ、どこから来ているか考えよう。	
(2時)	<ul style="list-style-type: none"> 近くの店やスーパーで食材の産地を調べる。 (例) 肉、魚介類、野菜、果物、乳製品、大豆製品など 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ食材でも、国産と外国産で値段が違うことに気付かせる。
(3時)	<ul style="list-style-type: none"> 「道の駅八王子滝山」で売られている食材を調べる。 (例) 野菜、果物、卵、米など 	<ul style="list-style-type: none"> 「道の駅八王子滝山」に直接行くことが難しい場合は、資料1の写真を活用する。
(4時)	<ul style="list-style-type: none"> お店や「道の駅八王子滝山」に並んでいた食材の中で外国産のものを世界地図に書き込む。 日本がさまざまな国から食材を輸入していて、食料自給率が低いことを理解する。 地球上には、食料不足による病気や飢えで死亡する子どもがいることを知る。 地元でとれる食材を積極的に選ぼうとする地産地消について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図を用意する 導入の食卓の絵に、輸入されている食材を描き加えても良い。 日本の食料自給率について資料2-1、2-2、3-1、3-2を活用する。
3次	外国人留学生に母国の食卓の様子を聞いてみよう。	
(5時)	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが描いた食卓の絵や世界地図を外国人留学生に見せながら、外国産の食材が多いことを伝える。 外国人留学生から、母国の食卓の様子や食文化、輸入、日本の食べ物について感じたことなど、話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの食卓の様子や外国人留学生に質問したい点を事前に簡単にまとめておく。 外国人留学生との交流を楽しむ。
(6時)		
4次	食の大切さで気付いたことを話し合おう。	
(7時)	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の食卓が多く国や地域に支えられていることや、外国の食事との共通点や違い、食を大切にすることができること、感想などについて各自文章にまとめる。 まとめたことをもとに、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことをまとめるためのワークシートを用意する。 時間があれば話し合った内容をクラス全体で共有する。
11. 評価計画		
<ul style="list-style-type: none"> 毎日食べている食材がどこの国や地域から来たものであるかを近くの店などで調べたか。〈体験目標〉 日本は国産や地元産だけでなく海外から多くの食材を輸入していることを理解できたか。〈知識目標〉 自分たちの食卓の様子を伝えながら、外国人留学生から母国の食卓の様子などについて質問し、コミュニケーションを図れたか。〈技能目標〉 食の大切さに気づき、これから自分ができることについて考え、話し合うことができたか。〈態度目標〉 		

※ 太枠内は、八王子国際協会として留学生を紹介（派遣）できる部分です。